

隨泉寺寺報

平成 22 年 (2010 年) 6 月号 第 478 号

TEL 082-892-0217 http://www.zuisenji.com/

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

前期門信徒講座

講師 法性寺住職 高都持 正文師 講

題 『なまんだぶつ ありがとう』

■泥落としの聴聞 ～むかしをしのぶ行事～

田植え後の休日、また、その祝いのことを、「どろおとし (泥落とし)」とか「しろみて」などと言います。「しろみて」とは苗代の苗を田んぼに植えて、苗がなくなることをいうのでしょう。無くなることを《みてる》とっていました。「どろおとしの聴聞」は水田で「どろもぶれ (泥まみれ)」になる重労働を終えた後の、ささやかな楽しみでした。

農作業が機械化される以前は、大勢が「てご (手伝い。手助け。)」に出て田植えをしていました。「てご」の労働力はしばしば「てまがえ・てまがえー」という方法によって集められました。これは、お互いに仕事を手伝って労働を交換し合うことを言い、村落における労働力補充と共同体としての認識・秩序を維持するための生活の知恵だったのです。

用具などの物を共有にする「もやい・もやえー」という慣習もありました。「てまがえ」や「もやい」の慣習は、農業が機械化された現在でも一部に残っています。道掃除などの共同作業のできない時には《てまぶそく》としてお金を払います。



6月の法座予定

- 6月13日……………掃除 上平原第1
- 6月14日昼席午後1時より……………前期門信徒講座
- 6月14日夜席午後7時より……………出張法座 上平原集会所
- 6月15日朝席午前10時より……………お父さんの集い おとき
- 6月15日昼席午後1時より……………前期門信徒講座
- 7月 2日午後6時より……………門信徒会本部役員会

☆ 初参式

初参式を開催いたしました。今年は長者原西の高橋学さんの長女高橋美緒さんと宮原の馬場誠治さんの長男 馬場琉源君の二人が授式されました。お勤めをして門信徒の皆さんと一緒に誕生をお祝いいたしました。どうぞ健やかに育ってください。



☆ 前住職 (老院) 三回忌法要

隨泉寺第15世住職聞思院釋不動法師の3回忌法要を勤修いたしました。2年前の葬儀の時は暑くて気分が悪くなられた人もありましたが、今年はストーブを焚かれたぐらいです。



2年間たってもいろんな方に前住職の話をよく聞きます。それだけ多方で活躍していたのでしょ。法要にはたくさんのお参りをいただき、老院もお浄土から喜んでいることでしょう。

☆ 広島雅楽会 35周年記念演奏会

住職が所属している広島雅楽会の35周年記念演奏会が広島市文化交流館で開催されました。今回は私自身は前回東京に行っていて参加できなかったの、10年ぶりでした。あまり練習もしていなかったの、出演辞退しようかと思いましたが、娘と出られるのは今回限りだと思い、参加いたしました。曲が10年前に僕が舞った《還浄楽》だったので吹いているうちに感激して涙が出そうになりました。



☆ 友達は財産

父が亡くなり半年が過ぎました。私自身まだ父が居なくなった気がしません。今でも休日に実家に行くとゆっくりしている父が目浮かぶからです。

生前、仕事人間だった父が、いつも私のことを心配し、連絡をしてくれたのは、今ではいい思い出になりました。友達の多かった父、入院中は沢山の方がお見舞いに来てくれ、激励の言葉を頂き、感謝の気持ちで一杯です。私は《友達は財産》という言葉が好きです。父は沢山の友人に恵まれ、本当にいい生涯を送れたと思っています。皆様には父が生前一方なら お世話になりまして、ありがとうございます。父に代わりまして感謝申し上げます。

法名 釋由經 俗名 夏井由則 平成21年10月11日往生 63歳 長男 夏井雅輝

☆御礼

永代経懇志 金 拾萬円 八木 博文殿 故 八木隅枝様 特 永代経志として

☆御礼

特 懇志 金 貳拾萬円 佐久間 正子様
特 懇志 金 貳拾萬円 馬場 シツエ様

6月 煩悩の泥のうちにおいて

仏の正覚の華を生ず

『入出二門偶』（註釈版聖典 549 頁）

「山のあなた」というカール・ブツセの有名な詩があります。上田敏の訳詩集『海潮音』（新潮文庫）の中の一つです。教科書で読まれた方も多いと思います。こんな詩です。

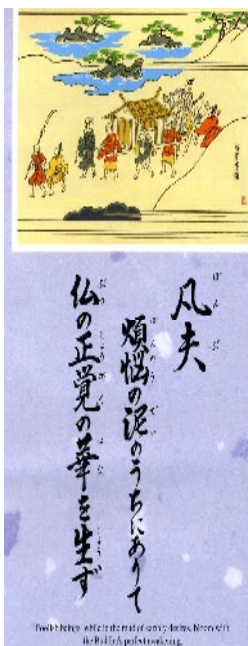
《山のあなた》

山のあなたの空遠く
「幸」住むと人のいふ。
ああ、われひとと尋（と）めゆきて、
涙さしぐみ、かへりき。
山のあなたになほ遠く
「幸」住むと人のいふ。

山の遥か向こうの地に行けば、幸せがあると聞いてその地を訪ねても、そこには幸せはありませんでした。山の向こうのさらなる彼方に幸せがあると、また、人がいっています。幸せを求める人は、さらなる彼方へ行くのでしょうか。私たちは今の生活に不満があると、どうすれば満たされた生活ができるかと考えます。例えば、南太平洋の島できれいな海を見ながら生活したいという人もいるかもしれません。また、職場を変えれば、結婚すれば、幸せになるという人もいそうです。

南太平洋で暮らすことは素晴らしいことです。また転職も今の時代はよくあることです。しかし、今が白くないからといって、今の生活をほうっておいて、南太平洋に移住すれば、どのような生活が待っているのでしょうか。楽しく幸せな日々もあるでしょうが、やがては悩みもでき、不満も出てきます。そこで再び次の場所へ移ることになるのかもしれませんが、このような生活をして良かったといえることはないと思います。

私たちは「あのようになればいい」「このようになりたい」と考えます。それは無意味だとは思いますが、「私の住む世界はここしかない」という事実を知ることが大切だと思います。「ここしかない」とわかると、そこに不満や白くない気持ちがあっても、「ここで頑張ろう」と思ったり、「何かいいこともあるはずだ」といいことを見つけようとしながら、満足感やよろこびの生活に変えることができます。



もちろん、縁あって、離職しても、南太平洋に住んでも、「私の生きる場はここだ」という思いでいれば、満足感につながる生き方になると考えられます。

右のことを、親鸞聖人は「凡夫 煩悩の泥のうちにおいて仏の正覚の華を生ず」と示されます。この煩悩に満ちた世界が私の生きる世界であり、ここで自分を見つめ、生きることが、泥田の中のハスのように、煩悩の泥の中で、仏のさとりにつながる花を咲かせると説かれていると窺えます。

☆ お父さんの集い

6月の第3日曜日は父の日です。今年も《お父さんの集い》を開催します。誘い合わせてお参りください。ところでこのごろお父さんの居場所が狭くなっています。存在価値が薄いということです。昔はお父さんの言うことは多少無理難題であっても絶対でした。しかしこのごろ私も含めて影が薄くなっています。

「親父がんばれ」



親父の小言

火は粗末にするな	朝きげんをよくしろ	神仏をよく拝ませ
不浄を見るな	人には腹を立てるな	身の出世を願え
人に馬鹿にされていよ	年寄りをいたわれ	恩は遠くからかくせ
万事油断するな	女房のいうこと半分	子のいうこと八九はきくな
家業は精を出せ	何事もかまわずしろ	たんと儲けてつかえ
借りては使うな	人には貸してやれ	女郎を買うな
女房は早く持て	難渋な人にほどこせ	生物を殺すな
年忌法事をしろ	義理は必ず欠くな	ばくちは決して打つな
大酒は呑むな	大めしを喰うな	判事はきつく断れ
世話焼になるな	貧乏を苦にするな	火事の覚悟をしておけ
風吹きに遠出するな	水はたやさ ようにしろ	塩もたやすな
戸締まりに気をつける	怪我と災は恥と思え	物を拾わば身につけるな
小商ものを値切るな	何事も身分相応にしろ	産前産後を大切に
小便は小便所へしろ	泣きごとは必ず云うな	病気は仰山にしろ
人の苦勞を助けてやれ	不吉は云うべからず	家内は笑ふて暮らせ

親父生前中の小言を思い出して書き並べました
今にして考えればなるほどと思うことばかりです

大聖寺 暁仙（福島県大聖寺 昭和三年）